

社会資本整備審議会道路分科会

第10回東北地方小委員会

【議事録】

○議 事

1) 計画段階評価

- ・ 東北中央自動車道（昭和～金山）
- ・ 東北中央自動車道（及位～上院内）
- ・ 東北中央自動車道（下院内～雄勝こまち）

1) 計画段階評価

○大滝委員長 早速、議題に入りたいと思いますが、その前に少しだけお時間をいただいて、昨日、秋田市で開催された東北地方産業競争力協議会についてお話ししたいと思います。

この協議会では、東北の地域としての戦略産業や、どうやって産業競争力を上げていったらいいのかという、今の安倍内閣での「日本再興戦略」、これを各地方地方で肉付けをして、しっかりした地方としての自立・活性化の戦略を作っていくということで、東北地方としての戦略産業の取りまとめと、それをフォローアップしていく会議です。その席上で整備局長もお話しになられていましたし、あわせて運輸局長もコメントされていましたが、何といたっても、今後の東北の復興、それから経済の活性化ということを考えるときに、私たちが担当している道路を初めとした社会インフラ整備というのは非常に重要な位置づけになっていることは申すまでもありませんし、特に震災の後、復興道路も含めて、それを加速化させるということをやっています。とりわけ東北にとって非常に重要な問題となる定住人口の急激な減少ということがありますので、それをカバーするような広域観光やインバウンド観光、さらには交流人口を増やしていくというような形を通して、人の循環をつくっていくということが経済のかなめになってくるのではないかと考えています。

その上でも、道路を初めとするインフラをどうやってきちんと整備して使い勝手のいいものにしていくのか、それから、これから高齢化がかなり進むということもあると思いますので、労働人口とか、壮年の皆さんたちの対応というだけではなく、お年寄り、それから女性や子供も含めた対応をどうやっていったらいいのかということも含め、私たちに対して色々なことが求められているのではないかと感じました。

とりわけ、今申し上げたように、観光や地域資源を点として位置づけていくのではなく、それを線で結び、面で展開・開拓していくというようなことが東北のこれからのとっても非常に重要な意味を持っているということになると思いますので、ぜひ、そういう面からも、この道路小委員会としてさらに色々なことを考えながら進めていければと思っています。

今日は東北中央自動車道の3区間についての審議を行うことになっていますが、この東北中央自動車道なども非常に重要な役割を果たしているのではないかと考えておりますので、ぜひ御審議のほどよろしくお話ししたいと思います。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

東北中央自動車道「昭和～金山」、「及位～上院内」、「下院内～雄勝こまち」

という3区間にわたりまして多くの話題を取り扱うということですので、まず、それぞれの区間の第1回意見聴取結果の確認、それから対策案の検討について説明していただいて、質疑応答を行った後に対策案に対する地元意見の聴取方法について説明していただいて、さらに質疑応答を行うという流れで進めたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 それでは説明させていただきます。まず、資料1の2ページでございます。前回委員会の概要について簡単にまとめております。

前回の議事の中では、資料に記載の①から④の4点がございました。この4点について色々議事をさせていただいておりますが、これに対し委員の皆様方からいただいた御意見を整理してございます。

まず意見聴取方法については、右側の「対応状況」に記載してございますとおり、いただいた御意見を踏まえて対応させていただきました。

なお、「意見聴取方法について」の上から5つ目、「設問」の2つ目にある「設問4の回答数について」は、実施の段階で検討した結果、当初お示ししたとおり、複数の御回答をいただくような形でアンケートを行わせていただきました。また、意見聴取方法以外にルート検討に関する御意見もございましたが、こちらについては今後また評価を進めていく中で考慮させていただければと思っております。

4ページから意見聴取の概要について取りまとめてございます。アンケートにつきましても、本年1月23日から2月14日まで約3週間にわたって実施いたしました。4ページの右側に地図をお示ししておりますが、着色しているエリアがあらうかと思えます。こちらは湯沢、新庄、金山、真室川と全戸配布を行った地域になりますが、こちらに3万5,830部のアンケートを配布しまして、そこから1万275票の御回答をいただきました。回収率にすると29%ということになります。

それから、全戸配布のほかにも、例えば周辺の市町村の役場や「道の駅」といったところにもアンケートを置かせていただきまして、そこからの回答ということで2,350票。それから、今回、ウェブを使ってインターネット上でもアンケートの回答をいただけるように工夫しており、そちらのほうで350票の回収がありました。

また、同時に行いました企業アンケートについては、156社に対してアンケートを配布し、108票の回答をいただきました。こちらの回収率は69%ということになります。また、企業のヒアリングも行っており、こちらは36社・団体に行いました。業態別の内訳は、4ページの左下のほうにまとめてい

る表のようになってございます。

5ページでございます。意見聴取に関する広報の実施状況ということです。

アンケートの実施に当たっては、まず、アンケートをやっているということをしっかり周知するということをやらせていただきました。新聞広告やポスターの掲示のほか、対象市町の広報紙へアンケートを折り込ませていただくとか、ホームページを使うとかといった広報も行いました。また、先ほども申し上げましたとおり、ホームページを使った取り組みの中では、例えばスマートフォンなどでも回答ができるよう、QRコードも使ってアクセスのしやすさという工夫を行ってございます。

次の6ページでございますが、ラジオ放送の活用や、金山町においては町の防災無線を使って、町民の方々にアンケートを実施していることをアナウンスしたり、それから、地域でのイベントの場所でもアンケートを配布させていただくなど、様々な手法を用いて地域の方々への周知を行っておりました。

7ページでございます。ここから先は住民アンケートの結果になってございます。まず、有効回答数。先ほど1万2,975票と御報告いたしましたが、地区別に見てみると山形県新庄市の回答が55.4%ございました。グラフに示すように、今回、3区間まとめてアンケートを行ったわけですが、約9割の方が3区間すべてについて御回答いただいたという状況になってございます。

続いて8ページです。こちらは、そのうち昭和から金山の住民アンケートの結果になっております。回答者の属性ということで、昭和～金山について回答いただいた方がどういった所にお住まいであったか、また、年齢構成、職業といったものを示しております。特に年齢層については、比較的バランスよく幅広い世代から御意見いただいたと思っております。

9ページになります。こちらは住民アンケートの続きになりますが、まず左側の円グラフは、対象区間の国道13号をどれくらいの利用頻度で使っているかという内容の結果でございます。回答全体で見ますと、月に数回程度以上、利用されている方が約6割いらっしゃったという状況です。右側の棒グラフについては、どういった目的で国道13号を使われていますかというアンケートに対する回答になりますが、観光・レジャーというものが一番多く、次いで仕事で営業や運送で使われる方、それから家事や買い物といったものが同程度となっております。

続いて10ページでございます。こちらは今の対象区間の現道13号の課題についてお聞きした結果ですが、目的地までの時間がかかる。特に冬期の速度低下といったもの。それから、冬の走りにくさ。除排雪等の車線規制の多さといった、雪に関する項目というものが全体の8割を占めてございます。

右側の棒グラフで秋田県側と山形県側に分けたグラフを出してございますが、

地域別に見ると、右下の山形県側の意見というのは全体と同じような傾向があると思いますが、秋田側のほうでは交通事故のリスクというものが多く出てきているのかなという状況でございます。

次に11ページになります。こちら、住民アンケートの意見があった場所を図示化してみました。現道の課題に対して、どういったことがあったかということアンケートの中で色々とお聞きしているわけですが、昭和から金山区間の全体で499件の御意見をいただきました。特に上台峠のあたりですとか、金山町内の場所での御意見というものが多くなってございまして、冬の間、道幅が狭くなることに起因する渋滞や、道幅が狭いゆえにすれ違いの危険性を感じたといった事例が多くございました。

続いて、12ページになります。こちらは、道路にどういった機能を求めますかというアンケートの答えになります。全体では冬の影響を受けにくい道路というものが最も多く、また、事故が少なく安心して通れる道路、最短時間で物流経路をしっかり結ぶようなルートの確保、災害等で通行止めになりにくい、こういった順で意見を多くいただきました。

また、地区別ということで山形側のほうを見てみますと、冬期の影響を受けにくい、事故が少なく安心、災害等で通行止めになりにくい、こういった「求める機能」のトップ3が入ってございまして、雪や災害の影響を受けずに、事故の少ない安全・安心な道路の機能を求められていると考えられます。

次、13ページになります。こちらは、アンケートの自由記述欄に寄せられた意見を整理したものになってございます。件数で見ますと、やはり冬期交通関連のものが最も多く、128件ということになってございます。

具体の中身を見てみますと、大型車との対面通行時には非常に狭いので徐行せざるを得ないとか、金山町の中心部は非常に道幅が狭くなっているといった御意見が寄せられておりました。このほか、交通事故の関連ですとか代替路の確保等、ネットワークの信頼性といった御意見、また医療関連の御意見も多数ございました。

続いて14ページです。こちらは、自由意見の中で道路整備の計画検討に当たり配慮したほうがいいのではないかというような御意見がありましたので、そちらを整理してございます。

まず、「ルート関係」と書いてあるところでは、高規格道路の早期完成とか、東北中央道が全線つながることを望むといった、高規格道路のネットワーク整備を望む御意見ですとか、逆に、新たな道路は要らないのではないかといった御意見もありました。

15ページ目になります。こちらは、現道の課題と回答者の居住地をクロス集計した結果でございます。新庄、金山、真室川、山形県内の1市2町につき

ましては、他の区域に比べて除排雪による車線規制が多いということを現道の課題と感じている傾向が強いのかなと思われます。また、左下のグラフは現道の課題と利用頻度をクロス集計した結果になりますが、利用頻度が多い方ほど除排雪による車線規制が多いと感じている傾向があり、また、昭和～金山の運搬排雪による交通への影響というものが、その地域に住んでいる方ほど、また、よく国道13号を使っていたりしている方ほど課題と感じていると思われます。

続いて16ページでございます。こちらは、企業のアンケート結果になります。こちらでも9割以上の企業の方に3区間それぞれアンケートを行ったわけですが、すべてについて回答をいただいております。

次、17ページになります。こちらは企業の方々の利用頻度をまとめたものになりますが、月に数回程度以上、利用されている方が6割を占めておりました。また、右側の棒グラフは現道の課題をお聞きした結果になりますが、特に新庄、金山、真室川では、住民アンケートと同様、目的地までの時間ですとか、走りにくさ、除排雪の車線規制といった項目がトップ3となっており、全体の8割程度を占めてございました。

続きまして、18ページをごらんください。こちらは、意見聴取結果を、こういった場所でこういった意見があったのかを地図に落とし込んだものになっております。御意見の中には、金山町の冬期間の積雪による道幅の狭さ、これによるすれ違いに時間がかかるとか、冬期交通環境に関する事例が寄せられておりました。

次に19ページです。こちらは道路に求める機能について企業アンケートした結果です。山形県内の3市町での結果となりますが、これも住民アンケートと同様に、冬期の影響を受けにくい、事故が少なく安心、災害等で通行止めになりにくいといった項目が上位3つとなっておりました。

次、20ページです。こちらは自由意見ということでいただいたものになりますが、自由意見の中では観光関連での意見のほか、道路整備の計画検討に配慮すべき事項等の意見がございました。そういった中で、全線開通すると輸送コストの削減が図れるとか、ネットワークをぜひやってほしいというような御意見がございました。

次、21ページになります。ここでは、企業のヒアリング結果をまとめております。36社に対して行いましたヒアリングの結果ですが、例えば冬期交通関連では、やはり除排雪による影響で時間が読めず、それによって残業代が増えているといった、企業ならではの視点での現道の課題といったのがありました。一般の方と比べますと、企業の経営に直結するような影響が出るといったような話も、リードタイムが読みにくいかといった部分で結構出ているのかなと思います。

続いて22ページになります。こちらは、意見聴取の結果、アンケートの結果をまとめたものになりますけれども、まず、1回目の委員会で御確認いただいた現道の課題ですとか政策目標に対して、アンケートでも同様の回答をいただいたのかなと思っております。現道課題の共有認識ですとか政策目標の妥当性というものが確認できたのかなと思ってございます。また、現道の課題や求める機能への回答についても総回答数の8割から9割の方々からいただいておりました、何らかの道路整備の必要性というものを感じているのかなと思います。また、アンケートの自由意見の中にもございましたが、整備の計画検討に当たり、ネットワーク整備をすべきとする意見ですとか、国道の改良だけでもよいとする意見など、色々と配慮すべき事項も確認できたと思っております。

次は整備方針となります。大まかなルート帯の案に関して検討したことを御説明したいと思います。

24ページをごらんください。第1回のアンケートのほうでは、地域が感じている現道の課題ですとか道路に求められる機能といったものが確認でき、政策目標が妥当だったのかなと思ってございます。また、政策目標を達成するための機能を有するルート帯案については、沿線住民の生活環境ですとか周辺への自然環境、コストなどに配慮しながら、考えられる対策案として3案を提示したいと思います。

1枚おめくりください。こちらは、ルートを検討する上で考慮すべき重要なものとして、コントロールポイントと呼んでいるものがございます。これは、道路の利便性を考慮してどこを通すのか検討する際、大きい集落とか学校など配慮すべきポイントのことでありまして、ルートの検討に当たってはこれらに配慮することとして考えてみました。

また、自然環境についても、ルート帯案の詳細設計段階で重要な動植物等の生息域などに配慮した計画をしていかなければいけないと考えていまして、今後、調査を実施して、どういったところに希少種がいるのかといったことを把握していきたいと思ってございます。

なお、昭和～金山の区間に南側に泉田道路という事業がございますけれども、こちらでは実際に希少生物の生息域が確認され、影響を回避するように配慮したルートを決定した経緯がございました。

次に、こういったコントロールポイントを踏まえた3つの対策案について御説明したいと思います。26ページをごらんください。

まず、案1ということで、全線新設案をお示しさせていただいております。全線で新たな自動車専用道路を整備して、現道の課題や地域課題の解決を目指していきたいという案でございます。

こちらは、場所が比較的、平坦なところが多いことから、盛り土が主体にな

ってくるのかなと思います。また、山の方に行けばトンネルを用いた道路構造が想定されると思います。大まかな延長は9km程度となる状況で、サービス速度は大体80km/h、コストは260から310億程度になるのかなと思います。

次いで27ページになります。案2として、一部、現道を改良しようという案でございます。もちろん、現道の課題が多い場所は、新たに一般道路を整備して、一部、現道を使いながら、現道の課題や地域課題の解決を目指していくといった案でございます。新設の区間は、先ほどの自専道パターンと同様に盛り土を主体としまして、山間部ではトンネルを用いた構造といったものが想定されます。現道改良区間では、道路幅員の拡幅等を実施していくというようなことを想定していくと思われれます。整備の延長については、大まかに10km程度、サービス速度については、自専道ではなく一般道ということで考えてみましたので60km/h程度、コストについては230から280億の間になるのかなと思います。

続いて、28ページをごらんください。こちらは案3ということで、現道改良案ということでお示ししてございます。対象区間のところでほぼ全線で現道を改良し、それによって課題の解決を目指すというような案でございます。現道の急な縦断勾配を少し緩和するとか道路幅員を拡幅するといったことを見込んで、整備延長は11kmぐらい、サービス速度を60km/hで考えますと、コストは210から260億程度になるのかなと思います。

次に29ページになります。こちら、先ほどお示した3案を1つの図に落とし込んだものです。下の方で一覧表に整理してございますが、この一覧表は先ほど御提示した3つのルート帯の案について、この地域の政策目標であります冬期交通環境の改善などの項目、道路整備により影響を受ける生活環境・自然環境などの項目ごとに、それぞれのルートがどういったところで優れているか、そうでないかといったものを整理しました。今後、地域の皆様方からまたアンケートを行いながらルート帯を絞り込むようなことをやっていきたいと思っておりますけれども、そういった際にこういったものをお示ししながら考えていきたいと思っております。

次は資料2の「及位～上院内」となります。こちらもルート帯案の比較まで御説明差し上げたいと思っております。

アンケートの部分などは「昭和～金山」で御説明した部分と重複する部分がありますので、ポイントを絞って説明をさせていただきます。

まず、11ページまでお進みいただけますでしょうか。こちら、及位から上院内の区間における現道の課題に対する具体的な実体験、どういったことがあったかという自由記述いただいたものになります。全体で133件の御意見をいただきました。特に、及位トンネルや県境部にございます雄勝トンネル、雄

勝トンネルから上院内地区にかけての事例が多くなっている傾向でございます。冬期間の路面凍結によるスリップですとか、吹雪による視界不良での事故の危険性といったことを多くいただいたと思います。

続いて、15ページとなります。こちら、アンケート結果のクロス集計結果の一例でございます。左下のグラフは現道の課題と利用頻度のクロス集計結果でございますが、利用頻度が多いほど通行止めが多いと感じている傾向があるかと思えます。また、「求める道路の機能と利用頻度のクロス集計」を見てみますと、利用頻度が高い人ほど最短時間で結ぶ物流経路の確保を求めているというような傾向がございました。

続いて、18ページとなります。こちら、企業アンケートの結果になります。現道課題に関する実体験をお聞きした結果を示してございます。全体で6件の御意見をいただきました。路面凍結によりスリップして事故を起こしたとか、住民アンケート同様に、冬期交通環境に危険を感じる事例というものが寄せられたのかなと思えます。

続いて、20ページとなります。こちら、企業アンケートの自由意見になりますけれども、交通事故ですとか信頼性・観光関連といった御意見のほかにも、道路整備の計画検討に当たり配慮すべき事項といった意見が寄せられております。「昭和～金山」の区間と同様に、全線開通すると輸送コストの削減を図れるといった、ネットワーク整備を望む御意見等をいただいております。

続いて21ページとなります。ここでは、36企業に対して実施したヒアリングの結果です。例えば冬期交通関連では、下りの勾配で緩いカーブが長く続き、危険を感じている。特に明け方通るのは大変危険なため、冬は雄勝峠を通る13号のルートはなるべく避けるようにしている、といった御意見がございました。

続いて24ページとなります。こちら、ルート帯案の考え方ということで、「及位～上院内間」のルート帯案の考え方についてお話ししたいと思います。

まず、「及位～上院内」においては、政策目標を達成するための機能を有するルート帯案ということで、先ほどと同様に、沿線住民の生活環境、自然環境、コストなどを考えながら、対策案として2案を提示したいと思います。25ページへお進みください。

コントロールポイントの考え方でございますが、こちら、社会的状況による要因としては、並行する鉄道、それから沿線にある集落といったものが挙げられようかと思えます。

なお、院内道路というのが北側に隣接する区間にございますが、こちらではトンネルの掘削に当たりまして自然由来の重金属が確認されておりますので、今後、地質への配慮といったものが必要になってくることが想定されます。

次に、このようなコントロールポイントを踏まえて作成しました案について、26ページをごらんください。

まず案1として、全線を新設する案をお示ししてございます。全線、新たな自動車専用道路を整備して課題を解決する案でございます。こちら、ちょうど県境部分が山間部になっていきますので、トンネルを主体とした構造となってくると思っております。整備延長は大まかに7km程度、サービス速度は先ほどと同様、自専道なので80km/h、コストは280から330億ぐらいかかるのかなと思います。

続いて27ページとなります。こちら、案2ということで、現道課題が多い場所は新たな一般道路を整備して、一部、現道のほうを使いながらというような案でございます。新設区間は、先ほどの自専道と同様、山間部のため、トンネルを主体とした構造になると思っております。現道区間は道路の拡幅などの対策を実施することを想定します。整備延長については7km程度、サービス速度は60km/h、コストは100から150億となっておりますが、先ほどの全線別線と比べますと、現道の部分が明かり部になるので、雪が直接積もるような区間を抜けざるを得ないところは残るという感じです。

続いて28ページをごらんください。こちら、先ほどお示ししました案1と案2を重ね合わせたものになってございますが、これも各項目についてルート of 優劣ございますので御確認いただければと思います。先ほどと同様、また地域の皆様方からのアンケートを行いつつ、ルート対案の決定に向けて検討を進めていきたいと思っております。

続いて、資料3の「下院内～雄勝こまち」について説明させていただきます。資料1と2で重複する部分は割愛し、相違点のみ説明させていただきます。

それでは、資料3の9ページをお願いします。この区間における利用頻度については、左下の円グラフのとおり、湯沢の方では7割方が月数回より多い利用となっておりますけれども、山形県側の方ではほとんどの方が利用したことがないというような結果になってございます。

次に11ページをお願いします。この区間における課題の実地体験を伺ったところ、全体で64件の御意見をいただいております。特に国道108号交差点や雄勝こまちインターチェンジ交差点、東山トンネルにおける事故の危険性というのを感じた事例が多く占めてございます。

次に、13ページをお願いします。ここは自由意見の欄でございますけれども、先ほど説明いたしました「昭和～金山」、「及位～上院内」同様に、冬期交通に関する御意見が多く寄せられております。

次に、14ページです。この中の意見では、道路整備の計画検討に当たり配慮が必要と思われる意見も多く寄せられております。また、反対意見、乗り入

れ口やサービスエリアの設置といった様々な御意見がございました。

次に15ページをお願いします。アンケート結果のクロス集計でございます。左上に現道課題と居住地クロス集計結果を示しております。湯沢市の方は交通事故のリスクが高いと感じているという結果でございました。先ほど、この区間では湯沢市にお住まいの方の利用頻度が高いと申しましたけれども、左下の現道課題と利用頻度の関係を見ても、利用頻度が高いほど交通事故のリスクが高いと感じている傾向となっております。

次に、企業アンケートの結果を18ページに示しております。現道課題に関する実体験をお聞きしたところ、2件の御意見をいただいています。この区間にある2つのトンネルで事故が生じている、などの意見が寄せられています。

次に、20ページをお願いいたします。企業アンケートの自由意見では、産業や観光面での意見のほか、住民アンケート同様、道路整備の計画検討に当たり配慮すべき事項が寄せられております。一例として、安全・安心な交通手段の確保といった意見が寄せられてございます。

次に21ページをお願いいたします。ここでは36の会社や団体などに実施したヒアリングの結果をまとめてございます。冬期交通関連では、冬期のツアーで雪の影響から大幅な変更が生じたといった意見や、交通事故関連として、横断の危険な交差点があるといった御意見をいただいております。

次に24ページをお願いいたします。ここからは整備方針（ルート帯案）の考え方について説明します。

「下院内～雄勝こまち」においては、政策目標を達成するための機能を有するルート帯案について、沿線住民の生活環境や自然環境、コストなどに配慮しながら、考えられる対策案として2案を提示したいと考えております。

次の25ページをお願いいたします。コントロールポイントについては先ほどと同じような考え方でございまして、接続道路、鉄道、社会的影響が大きい集落、学校等の施設、史跡等に配慮することとしております。自然環境については、ルート帯確定後に重要な動植物の生息域を把握します。

なお、隣接する湯沢横手道路では、貴重な動植物の移設等を実施していることから、今後、生息域調査の結果を踏まえて具体の配慮をまいります。

次に、これらのコントロールポイントを踏まえた2つの対策案について説明いたします。

26ページでございますが、これは、全線で新たな自動車専用道路を整備し、現道課題や地域課題の解決を目指す案でございます。こちらは盛り土を主体とし、一部トンネルを用いる道路構造となっております。整備延長は約4kmで、サービス速度80km/h、コストはおよそ80億から130億円でございます。

次に27ページをお願いいたします。この2つ目の案は、ほぼ全線で道路を

改良して、現道課題や地域課題の解決を目指す案でございます。現道の改良としましては、平面交差点の立体化、既存トンネルの一部拡幅などを行います。整備延長は約4kmとなっておりますが、交差点の立体化や前後のすりつけが想定されますので、現道活用区間は余り確保できないような状況でございます。サービス速度は60km/、コストは約60億から110億円です。

次に、28ページをごらんください。これはルート帯の比較の検討案でございますけれども、先ほど説明した2ルートについて項目ごとに比較整理したものでございます。それぞれの案ごとに項目の優劣がございますので御確認いただければと思います。今後、地域の皆様からの意見聴取も行いつつ、ルート帯案の決定に向けて検討していくこととしてございます。

「下院内～雄勝こちま」の説明につきましては、以上でございます。

○大滝委員長 今の事務局の説明につきまして御質問や御意見をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

○大泉委員 資料1の2ページで御説明いただきましたが、回答者が世帯主だけに偏らないよう、車を一番利用している方に記入していただきたいという意見に対して、「チラシで、複数の方から回答してもらいたい旨の文章を記載」とありますが、これは結果的に、1世帯で回答が2件あったとか、色々な方たちに回答していただくことになったのかどうかということです。

というのは、8ページの住民アンケートの属性で、年齢の構成や性別などに関して、前回の「北茨城～いわき」とは実態は違いますが、比較してみると、年齢のバラツキが非常によいというか、余り高齢者に偏らない年齢構成になっているというのと、性別に関しても、いわきの方のアンケートでは女性が20%前後だったと思うので、ここも比較的バランスよくなっているということで、世帯で何通か書いていただくことによって、バランスがうまくいったのかなと考えたものです。その辺、いかがだったのでしょうか。

○事務局 チラシの配布もさせていただいた結果で、まず、1世帯で2件とかご回答があったのかということに関しては、このアンケート自体がお住まいの部分や世帯というところまでは書いてございませんので、そういったところに関して把握できないのですが、結果といたしましては、先ほど大泉委員がおっしゃっていただいたように、年齢層や男女比を考えましても、ある程度、バランスよく答えていただけたのかなと。また、免許の保有者数に関しましても、免許を保有している方が9割ぐらいと答えていただいておりますので、そういった意味では利用していただく方に記入していただいたかなと思っています。

この前の勿来と比べてということですが、地域も違いますので、今回のアンケートの書き方が起因しているのか、もしくは地域としての特徴なのかといったところまでは分析できてないのですけれども、結果として、いただいた御意見が正しい形で反映されたのかなと考えております。

以上です。

○大滝委員長 大泉委員、お願いします。

○大泉委員 多分、地域別でかなり結果が違っているのではないかなと思います。金山などは街の中を歩いていくわけなので、かなり生活に直結した道路だと思います。ですから、クロス集計結果などもいただいていますけれども、回答にかなり違いが出てくるのではないかなと思うのです。

全体だと、例えば9ページだと、問2「主な利用目的は何ですか」というのに観光・レジャーが非常に多くなっていますが、地域ごとだと家事とか買い物が多くなっている地域もあるのかなということで、その辺の違いみたいなのを細かく見たほうがいいのかと思いました。

例えば金山ですと、どのぐらいお願いをして、どのぐらいの回答を得たのかということも、お聞かせいただきたいと思いました。

○事務局 まず、住民アンケート、金山町ですけれども、布配は1,740おこなってございます。そのうち回収が192ありました。

この中で、先ほどのクロス集計のところでも出ておりましたけれども、金山のほうでどういった利用目的が出てきたかと申しますと、一番多かったのが、家事・買い物が他と比べて格段に高い回答をいただいています。比率にして34%程度、そういった御意見がございまして、全体と比べると、委員御指摘のように、生活に近いところでの利用の仕方というのが多かったかなという傾向はございました。

○大滝委員長 大沼委員、お願いします。

○大沼委員 今回のアンケート結果の回答数などを見て、特に山形側の期待度が高いのかなというのを感じました。中でも、この地域は本当に雪の多い地域ということで、1年の4分の1ぐらいとはいえ、やはり雪に配慮した道路づくりというのが必須になってくるのかなと思いました。

それと、通行止めになると迂回路がない部分も、住んでいる方々にとっては不安になる部分も多いと思いますので、その辺も住民の方の意見を踏まえて、

次のアンケートでルートの場合からどれになるかというのを決定されると思うのですが、使う方の意見が一番大切だと思うので、アンケートだけではなく、実際にも生の声を聞いていただけたらいいなと思いました。

以上です。

○大滝委員長 大泉委員、お願いします。

○大泉委員 資料1の22ページで、「現道課題や求める機能への回答率は、全体回答者の約8～9割に達している」ということから「何らかの道路整備の必要性を感じている」ということが確認できたと言い切れるかどうか、少し違和感を感じました。

というのは、問3-1の「問題点」や、問4の「機能」については、複数回答で丸を付けるようになっていきます。例えば、問3-1の7番に「特に問題点はない」という項目を設定して、8～9割の方が「特に問題点はない」以外のところに回答したら問題を非常に持っている。また、問4に関しても「特に求める機能はない」という項目があれば、これ以外の回答をした方が多ければ機能をかなり求めているなというように、ストレートな結論に結び付くかなと感じたのですけれども、この辺はいかがなのでしょう。

○事務局 問3-1、問4の部分ですが、22ページのまとめの部分で書かせていただいたのは、困ったことや問題点のある方が、こういったところにチェックをつけていただけると。問題点のない方はつけないのかなという意味で、回答された方がいるということは、何かしら困っていることがあるということで、こういう書き方をさせていただいたのですけれども、今、大泉委員がおっしゃっていただいた部分で、「実際に困ったことはない」といったチェック項目がないのは、確かにおっしゃるとおりかと思えます。

意図としては、困ったことを聞いて、そこにたくさんチェックをされているということは、何かしら必要性を感じているのかなという思いでここでは書かせていただいたのですけれども、このまとめ方の部分をまた検討させていただければと思います。

○大滝委員長 何らかの道路整備の必要性を感じているというのは、もしかすると、突っ込み過ぎとか、言い過ぎているかもしれないですね。表現の仕方が微妙だと思うので、これで悪いということもないのかもしれませんが、そこまで言い切ってしまうといいのか、というのはあるかもしれません。少し検討してください。

今、幾つか御質問等をいただきましたが、資料1、2、3に基づきまして意見聴取の結果を確認していただき、それに対して、対策案、代替的な案をそれぞれについて提示し検討いただくという流れについては、特に異論とか強い御意見はなかったように思います。

基本的には、意見聴取結果を受け、それに対して、それぞれの区間で妥当だと思われるような対策案、代替案を提示していただいているというふうに、概ね妥当と判断してよろしいかと思うのですが、皆さん方はよろしいですか。

ありがとうございました。

それでは、それを踏まえた上で、引き続いて、この対策案に対する地元意見の聴取方法について説明をお願いします。

○事務局 今後の手続の進め方ということでございますが、資料1の31ページをお開きいただけますでしょうか。

本日、東北中央道の3区間について2回目の小委員会ということでございますが、1回目のアンケートの結果、それからルート帯案の考え方等について、御審議いただいたところでございます。今後、対策案の選定時にどういったことを重視してやっていけばいいのかといった項目について、また、地域の皆様方がどういった方向を重視していったらいいと考えているのかといったことを、アンケートをやっていきたいと思っております。アンケートの結果について整理させていただいた後、また小委員会にお諮りした上で対応の方針を決定していきたいと考えてございます。

それから、33ページをお開きいただけますでしょうか。地域からの意見聴取のアンケートの方法についての案をお話ししたいと思っております。対象地域や周知方法を書いてございますけれども、これらについては前回と同様の設定としております。

続いて、34ページをお開きいただけますでしょうか。意見聴取の項目と、それをどうやって活用していくかということ整理してございます。

今回の意見聴取では、比較ルート帯の案について、接続位置といったものに対しての意見を主に聴取していきたいと考えてございます。次のページからがアンケートチラシと調査票の御説明になりますが、資料4として実際のものをお手元に配布しており、構成としてはA4判の冊子のような形で作っております。1回目のアンケートチラシと同様に3区間をまとめて作成してございます。調査票は1回目のアンケートと同様に、葉書による回収といったものを主に考えてございます。アンケートチラシにそういった葉書を挟み込んだ状態で配布したいと思っております。

チラシの構成については、まず1ページ目のところが調査の概要をお示しす

るものとなってございます。ページをめくっていただきますと、昭和～金山、及位～上院内、下院内～雄勝こまちの順番で、3区間ごとに、それぞれの比較ルート対案と比較表、それから1回目のアンケートでいただいた結果を提示する形としてございます。2ページ、3ページのところで昭和～金山、4ページ、5ページのところで及位～上院内、6ページ、7ページの見開きで下院内～雄勝こまちという形で、同じような構成で、それぞれの区間についてのルート帯とその比較、それから1回目のアンケートでいただいた意見というものを示させていただきます。

最後の8ページになりますけれども、東北中央自動車道全体の役割として、どういった路線の位置づけを持っているのか、整備効果についてどういう機能を発揮しているのかという、全体の路線の話もお示しするようにしてございます。皆様の御意見を伺うための調査票として、A4両面の資料が挟まれていると思うのですが、これは、実際に投函するときは葉書を切り離して御回答をいただくようなことを考えております。

表のほうにはアンケートの記載例を書かせていただいておりますし、裏面には葉書の回答欄とアンケート設問を提示してございます。アンケートの設問については、先回の1回目のアンケートでも確認しております問1の利用頻度や問2の利用目的のほか、問3として、ルート帯を検討するに当たって、地域にとって望ましい案を選ぶ際にどういった項目を重視すべきかということ、3つ選んでいただくようなことをしていきたいなと思っております。

また、問4のところで、具体的な内容を自由記述するようにしてございます。問5では、自動車専用道路のスタイルであれば当然、インターチェンジとか現道との接続部分が必要となってきますので、そういった連絡域を検討する際にどういったことに配慮していけばいいのかといったことを具体的にお聞きする内容となってございます。また、問6として、その他の御意見を自由にお聞きできるような内容としてございます。アンケートについては、特にチラシの中身とか質問事項の内容について御審議いただければと考えてございます。

説明は以上になります。

○大滝委員長 今の事務局の説明につきまして御質問や御意見をお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○加賀谷委員 アンケートの内容については、この内容でよろしいのではないかと感じております。

また、次の小委員会においてのお願いでございますが、今回の整備方針の考え方で政策目標がございませけれども、先ほど大沼委員からも御指摘あります

とおり、冬期の安定性というのがほとんどの項目に重複している形になっていると思います。あそこを体感されてない方はどのぐらい雪が凄いかというのは御理解いただけないと思うので、地域の方々へのアンケートはこれで結構だと思うのですが、できれば次の小委員会の中では、特に冬期間の積雪の今の状況とか、生活道路の現状の写真みたいなものを少しお示ししていただけないかなということをお願いしたと思っております。

以上です。

○事務局 今いただいた意見の部分は、次の委員会のときに対応させていただきたいと思います。

○大泉委員 アンケートとしては、回答者が読み込む分量が非常に多くて、これは若い人でも大変だなと思います。なるべく情報を整理して、一覧でわかるようにしてあげたほうがいいかと思います。例えばルートと比較などで、表になって文言で示してありますけれども、◎とか○とか△といった記号で示してあげるのも1つの方法かと。この文言を読んで、どのように差があるのかというのを読み解くというのは非常に難しいという気がいたしました。

その辺、少し工夫していただければと思ったということと、もう1つ、先ほど金山とかのお話をいたしましたけれども、第1回目のアンケートでは、1740配布して回答が192と、概ね10%の回収率となっています、直接、生活に関わる地域であるのですが回収率としては少ないかなという感じがしましたので、その辺、2回目は御回答いただけるような工夫をしていただければと思います。

以上です。

○事務局 アンケートにつきましては、特に今回は3区間あるということで、前回の勿来のように1区間に比べますと、そもそも区間数も多いので情報量も多く見えるところはおっしゃるとおりかと思います。なるべく皆様にわかっていただきやすいというところの整理等をもう一度検討させていただいて、また委員の先生方にも諮らせていただきたいと思いますと思っております。3区間ございますうち、必要な情報に関しては載せさせていただきたいということもありますので、どこまでできるかというところは工夫したいと思います。

また、特に昭和～金山の部分では、おっしゃるとおり金山の町の方々が利用される部分が多い道路になろうかと思っておりますので、その部分はまた地元の自治体の方とも相談して、答えていただけるような工夫というのを考えていきたいと思っております。

以上です。

○大滝委員長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、今いただきました幾つかの貴重な御意見がありましたので、それをできる限り反映させていただくということで御検討いただければと思います。

今まで色々いただいた、特に資料1、2、3、4全体として、第1回の意見聴取結果を踏まえた対策案の検討、対策案に対する地元意見聴取方法につきましては、委員の皆さんからいただきました意見をこの後できる限り反映させていただくということで御検討をお願いしたいと思っておりますけれども、御提案いただいた中身につきまして概ね妥当だというふうに判断してもよろしいのではないかと思いますけれども、よろしいですか。

それでは、概ね妥当という結論にしたいと思っております。事務局のほうで本日の意見も踏まえた上でこれから意見聴取を進めていただくということで進めたいと思っておりますけれども、皆さんよろしいでしょうか。

それでは、御意見も踏まえて先に進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

○事務局 御審議ありがとうございました。いただきました意見を踏まえまして、アンケートのほうを再度調整して皆様にお諮りし、アンケートを実施させていただいて、また、次の小委員会につきましては、その結果がまとまり次第、後日、連絡させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○大滝委員長 今の事務局の絡連につきまして、よろしいでしょうか。

それでは、最後に本日の委員会資料の公開・非公開について確認をいたしたいと思っております。

ホームページ等に資料を公開するかどうかについては、本日の会議に提出された資料についてはいつものように公開するという形で進めたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様方からの了解をいただいたということで進めさせていただければと思います。本日の資料一式につきましては、公開としたいと思っております。

それから、議事録につきましても速やかに公表することになっておりますけれども、事務局から御提案をお願いいたします。

○事務局 議事録のほうは、まず議事概要についてつくらせていただきまして、

大滝委員長のほうに確認させていただき公開したいと思っております。詳細な議事録につきましては、後日、委員の皆様にもメール等で送付して確認していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○大滝委員長 議事録についても、ただいまの対応でよろしいですか。

それでは、了解いただいたということで進めたいと思います。議事概要については、私が責任を持って確認したいと思います。

以上で、予定しておりました本日の議題は終了ということになりますので、議事進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 大滝委員長並びに委員の皆様、長時間の御議論、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、社会資本審議会道路分科会第10回東北地方小委員会を閉会いたします。ありがとうございました。